

しまなみ海道へのおもい

情報システム部
中嶋 聡

SATOSHI NAKAJIMA

尾道市には妻の実家があり定期的に帰省している。尾道を起点として今治まで続くしまなみ海道がある。全長約 60 km の高速道路で、瀬戸内海に浮かぶ島々を経由して本州と四国を繋いでいる。瀬戸内海と島々のコントラストが美しく、絶景を見ながらドライブするのも良いし、島巡りをするのも良い。沿線には観光地も多く、魚や柑橘類等の食も豊富だ。しまなみ海道を初めて訪れた 30 年程前は全線が開通しておらず、観光客や交通量も少なく、地元の方の利用が中心だった。最近では全国から観光客が訪れて渋滞が発生することもある。また、世界中からサイクリストが集う聖地へと大きく変貌した。多くのサイクリストが行きかい、自転車を祭る神社や、サイクリスト向けのカフェや民泊もできてサイクリストで溢

れている島もある。ここは本当に瀬戸内か?と疑うこともある。学生時代は自転車旅行が趣味で、自分の足で目的地に到着した時の達成感と充実感が大きく、多くの場所を自転車で訪れた。社会人になってからは自転車旅行をすることはなくなったが、もう一度、自転車旅行をしたい思いは強い。いつか時間ができて体力があれば、サイクリストとしてしまなみ海道を走りたい。



編集後記

明けましておめでとうございます。

新年号にあたり、環境省環境再生・資源循環局の角倉次長、同局廃棄物規制課の松田課長より年頭所感をお寄せいただきました。

「JW 座談会」では、「総合判断説」をテーマに、廃棄物該当性の判断について、長岡文明様を司会に、自治体職員 4 名の方が実例をご発表後、判断のポイントなど議論を深めていただきました。技術的助言である通知の位置づけや、総合判断説の考え方など、自治体、事業者の方々にとって参考となる座談会となっています。

「事業報告」では、電子マニフェストの普及状況、及び中央環境審議会で議論されている「電子マニフェストの項目追加」への対応等を報告しております。引き続き、資源循環に資する電子マニフェスト情報の活用を検討していきます。

今回が最終回となります「コラム」では、環境保全、資源化に向けた施策に対し、業界が貢献するためには、ビッグデータの必要とそのデータ整理が重要であること等を紹介されています。4 回に亘りご執筆いただいた高橋様に御礼を申し上げます。

「連載講義」では、海洋プラスチック問題対処として、ライフサイクルの各段階での対策、資源循環の加速化による発展途上国への波及が鍵となること等をご解説いただいています。

最後になりましたが、本誌の発行に際し、ご執筆、ご協力を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。

本年も産業廃棄物の適正処理、循環型社会の形成に向けた情報を発信してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。(広報室)

■本誌に関する連絡先：総務部広報室 (e-mail:jigy@jwnet.or.jp)

<アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下の URL)に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JW センター情報(季刊) VOL.24 NO.4

発行日：2025 年 1 月 15 日発行 発行人：関荘一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒 110-0005 東京都台東区上野三丁目 24 番 6 号
上野フロンティアタワー 13 階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術